909
2

へ9特
908
2
科
908
2

俳諧

金子和門氏ハ蕉門の佳句なり
あるべし是れ本来
上方の俳士の
柳樽の評大イなる
の

帝国図書館蔵

宮内省圖書寮

里松氏評

寶昌寺武義ハ今ハ私の家を
風風も月小三度八羽をぬし
公家二人系と旅と称ハむかり
武の子義矢むこ家ことし
法蔵寺ハ小〻あ〻いかゞ
松〻らんて新〻ん〻るかり
西ゐく系風よりあ中納云
地八系代已八系代より結産

孫川
シタ
仝
琴山
西夕
仝
秀矢
シタ

石女ゝ植ても実のる事非 佐
新政の位ハ不ん人の初ゝ人の
清原ゝ吉源秩のふちゝ〜ら
盲目の一ツ目ふあるこちよさ
去歳ゝ由来引宮の残をぬき
左ゝ阪植ゝのとこて歩のをき
古度の俳て宮ゝきりめける
君ゝ吉ゝ和ゝふを孔を帰ゝ

一

稲川
菱素
横好
笠山
マイヤ
西旦
笠素
マイヤ

走ゝ吉流ゝ吉ゝ水を指ゝ吉ゝ
金屋でゝ孔ハ軍も面ふ〜
借りのゝひ拂がきむと盗が来ル
むどひ尺ゝ孔ゝ孔ゝ蓮つをくどのゝ
帰ゝて古ゝ〜ゝ四日ゝ
変ものゝ吉ゝ吉ゝの吏る桃の山不
妾が母ゝ〜ゝ孔ゝ孔ゝ畜生ゝ
大門をメ〜ふ二ゝ吉ゝ吉ゝ
不面ゝ孔ゝ引せゝ孔ゝ菱山ゝ吉ゝ

横好
吉素
未学
吉素
西旦
秀矢
笠山
玉吉
横好

人魚ざと呼び寄せ獲人中の事

十女の名付きお竹大日如来　　横好

なぐ一ツ貞女ゑかむる弥ゑ　　孫川

おきあげのてゝちんぐる大ゝゝら　　玉章

地ごく〳〵でゑとく鬼よりも恐ろし母　　雪矢

孫川の月者さぐけゑ切りゑみる　　菱井

けいせん化して姫とゑるむつゝさ　　笠山

云ゑゆゞなきか初今ハ海をわめ　　柳面

孫二十面屋とかゝとゞ菊弥ゑ　　有幸

二　　吉秀

恋病疾〳〵ゑ呂利牛房を思いて付ケ　　横好

川柳評

天元の一ヲ二海で立たまひ　　笠山

波〳〵ゑ今ハさゝゝのもの波ゑ　　柳面

赤きゑを影〳〵遠ア世よ祭り　　孫川

よゑ姫さゝ祝名ゝゝの間義雛　　笠山

ゝ姫入り町役人もつまゝゝめキ　　仝

大ちんゝやゝゝゝゝ元ト誘遣ち　　仝

青やの忠をさゝゝの本よ紀〳〵　　雪矢

あんぜうさうおきんぜうと宋天　菱中
彩改の三位ハ市ノのひろいもの　菱嘉
桃の間裏でうりうまる袴ぶれ　春史
云かの童見もぜんまいさいくこ　柳面
うきよものがれ品川へいんきよこ　面夕
よしゝ京の古手ハ庵屋で筑紫上れ　嘉秀
お気の人何百石もひざへのせ　里松
四ゝねを春さぜんハと　金家老　孫川
うりをぶゝ不世先でうふ毎所　盛章

三

柳小栗てゝおく方ハ春をねり　菱中
ぢゝ者よ女房ニ歩めひなをくれ　シノト
出房ゐるハハゝ　ハゝ　ハゝ　ハゝ　ハゝ　面夕
よしゝ所ハ世をすて人のひゝく　ハ　シノト
十府の蓄菰より　ハ蒲ゞもて　孫川
業師ちと兼好へんドよこまり　未学
李夫人をけいぜんよゝる李延年　里松
走れ始もゝ者所さ面と汁り出キ　柳雨
盲目の一ハ目ゝ　ハゝ　ハゝ　ハゝ　ハゝ　ちよさ　笑山

ゑ〻和尚俗の法義を吟てゐる　義中
大坂小寺といふもの出来さげか　仝
ゑ〻ぶんまるとい先ッ中九て旅　孫川
お松ゞ名高ゑ〻〻て離の針あり　笠山
吉度の俗てゐ人さへ切ぬけるゑ　菱義
是利ハ河や彩田ハ古祢一乐　雨夕
ちやだもゑ〻いも度〻なる廿八　西旦
阿房ゑきゑうねれ十一ヶ日目　柳西
五杉一ト〻〻度赤ひとも世里　香矢

四

ふるさの切ゐりものこ〻雷のこ〻嘸ヒ　アイ女
志のゑすれ泥で恐いまれいゑ　里松
切を風を紙屑ゑゐい破布昔る　香矢
門ト杖のおやを尺切ゑ大度ゑ　孫川
打条金なゝぶゑ〻ふ去ッてこゑ　笠庄
ゑ吹ばゝゑゐ女度大あゝし　西夕
今戸ゑ人宮ン鬼を釜へ入レ　菱オ
居ひねるゑもちゑ男　シクト
旅のゑ宮男の外子細あト　西夕

八ツ口ら鶯を考へ
ましりごとおこそ
越下屋（四方屋
病こより赤ばー伝
拍糸金尺寸吸
色くゝ姫のいくとがらかハき
矢尾
形りもて一子字遠ハ木の子
是正サか天ガ下知恵
松の根まつるのよるひを変ぐ

有幸
シクト
吉彦
里松
仝
香矢
里松
孫川
玉幸

五

箕山評

御家様子八君子の徳乃風を出し
黄金ハ桃ハ清廉と花乃兄
江戸結髪の里数剃髪を嘉と恵
一下声ハ清祝乃のおまがなり
末世迄形見をしきかゝ衣
小金井の桃ハ玉ハ疵でなふ
武ゝ対ハ山結藤が鬼門ハ隠ケ
乗人ハ俗ガ山乗りまゝと安ハち

是楽
シクト
巾布
柳百
仝
巾布
孫川
吉弱

魂を多ぶしきさぶぬ聲引手　竹子
閉ぢ申うゝ武かるるときの笑しさ　留人
我らせこの来べきさふむりゝ國うの　中布
毛を垂キ垂ちと共子ゞ屋ゝふゝ　の柳
伝書ハ七書ハ表イ　四書ハ本也　留人
格代を二度むざるもの男女あり　也雀
法事の仕切ハ松屋初メあり　赤学
日書ハ寺より拵の幕を打チ　左幸
佛つゝハ力士武門ハ禅師なり　妻弱

析世七ノ六

南の手を出ゝ二見のあ俗り　雨豆
海底ハ号孫討あるゝて　喜程
坂乃藝拵ゝ退キ人ゝよ　喜弱
坊主より振り袖拵ハ無ゝなり　横好
哀の辛苦ハ或ハ月を走ゝ　爰中
浜路を付ゝ居ゝ毛ぬ檀の浦　左雪
里へ来ゝ氣かゝ称七氏吾ゝ実母数　つ柳
橋左立業飯を焚ゝ礼ハ吸ゝ　斗丸
ゝあゝゝ字ハ走ゝゝ息子漢ゝ　里私

皆出るとて手字又でも呉るゝ事
目ふ又〳〵怪鬼かをの事る大海日　若葉
振上ケさ左刀乃ケ々ハ江月立ち　赤学
会法乃奥の手陽図で奪ハ出し　西夕
吉武枝時ハ〳〵きゝ通辞あり　玉章
矢ゝ元りてハ三ツ一のたゝとなり　菱花
拍掌〳〵吉人〳〵鶴たんかあり　辛
矢の使者ゝも平ハ有徒葛亮　芭乗
青糸は伊陀本号度の四かり有　柳西
　　新世七ノ七　吉嘉

胡坐り左右呉腦の二面なり　マイタ
大キかあり〳〵多ます〳〵呂布ハ　横好
モウ武里ハ〳〵江戸入りゞ帰り　海人
晴日の月を見る人〳〵と武者借〳〵　西旦
乗〳〵塚晴日月の出さ訴ゝ　ミタト
又所の田地秋作ゝかんじん　西夕
者板〳〵伝り河〳〵場立ち　菜東
生ゝ樓拵ハ〳〵いゝ立と松て切り　子松
鼎南ヤぬや〳〵ふか〳〵初手出れ　仝

[illegible]を[illegible]と云ふ中小雲て来る　柳面
[illegible]さん[illegible]新[illegible]せと[illegible]げちか　[illegible]根　[illegible]
村出合柿樹の小柿もさして来る　横好
[illegible]の蕎麦やいぶ付ク　玉章
天竺へ波海武文が松き栄り　横好
おなひ出[illegible]を八基盤で境論　中布
首を[illegible]ふせ紙の内をもり　志夕
むふたもも月さ[illegible]で窄　孫川
芋かく賣[illegible]下女義　里松
柳世七人八

[illegible]を夏で洋　西夕
熊の中岩さん出[illegible]乳母屋麻　玉章
大尾箱入りの男を馬角て麻敷　三ク下

川柳評

大名の拵をたくむ大手先キ　斗九
都の[illegible]位も[illegible]伊勢参　孫川
御同勢[illegible]虎が[illegible]小栄り　[illegible]
[illegible]さを[illegible]家老　孫川
四十七由来[illegible]下小侍ふ　忠　左

年〻第〻花の江姫乃礼　笠山
太左ハ不成能日〻加〻ゝ　柳百
表櫂〻〻不二ゝ月向ケ信福業　中布
吉二枚ゝゝ〻〻考ハ通辞ゝ　芙蓉
ゝゝの尾ハ孤して命〻御建ゝ　孤雲
矢は使来てゝ平氏か孔葛亮　柳百
皆ゝるゝ千字文でゝ　吉秀
お文小春風端書幕　柳雨
職人を五百ゝ〻先能ゝる　留人

柳世七ノ九

月明〻ゝ小〻〻〻吉星稀南　左華
姫の藝ゝゝ退ゝ人〻〻〻ゝ　麦弱
孤狐ゝも付て居〻ゝ檀の浦　左麦
基〻〻ゝ出て菓の系をつて吸付　吉秀
女形左外をするい古弟　玉麦
花人ゝ儀ゝ出居りまゝゝ安雪　麦弱
能ちりゝんゝ〻ハ凡ゝ吹せ〻〻　斗丸
蔓の葉をゝ内ぞり浸ゝ餅乃湯　茶乐
姫の孔ゝのめゝき日ゝ〻ゝ内を出来　研川

筋骨をぬうまこと和光を立通し　シヤ下
モウ武里こさして江戸入が帰り　留人
奏長こさ姫首の産人出るかう　妻詞
楚こさ呂しなへたんぞふのたぐたま　横好
を敷拵ずさしかけてこさ〜ずタせ　マイタ
大根武者長こさ〜まゆ〜の加〜蟇　孫川
矢取でふ三国一ずのたとこあり　形学
白ウ鳴女護の御へきを〜〜ん　男私
振上ずこさ左刀五世男こさ女出し　西タ

柳世こさず

武年目の古刑ずこさ辺孔ずり　マイ女
いつのぞふ長こさ〜ちうとん長こ人　志タ
後家こさけこさふこさ所中ひこさ居こ　長市
かまこさ〜や後世の中〜かこさて居し　左学
独稽をこさ〜こさ〜壽こさ〜ともやこさびや　義中
こさ〜孫ず撫ぶん女房の孫ず　左幸
射房〜こさ〜虎ざ〜こさ〜原こ位　玉幸
我せこさ事魚きハむ〜国こさの　中布
坊主より振袖拵ケ長ぶ所り　横好

市正殿義さまのるる元なり　門柳
百年より資朝も稱ぶむらくし　寺学
四丁の田地秋帰のかんどん　百夕
おなじく目もちもちくとそひ門　見乐
夫婦としてちぎるいきちか錦やと　一種
元ちゃが貴一きりをいふ　孫章
ふるうきこで窪　孫川
ふたもも月小　寺約
言物ちゃん殿と誉くに叱らもる　マイタ
ちゃ殿後兵衛つめ門つめ対
柳世七ノ土

枝よ柱と教んくいさらばせ　裏表
胡坐りもにきんはをいてこ　横好
柳橋毎らくとおうつけ　竹子
紀ちゃ紀文内でいふ糠味噌汁　孫川
見ちゃも本塔ふとに蓋若させ　平九
おんゑ人ちゃれを西へ持糸呼と　門柳
目ふたへる鬼ちゃの事ら大晦日　寺学
見抜やでもカけりの汗をう紀　一種
恋風ちゃ信殿を毋すく先　孫川

けいさんが茅を手ぬぐいにつゝむや祢　春約
大和笠　就たんわど西めりゞ　夏木
村雨合板橋の小橋もさゝて来る　横好
野ゆり古太郎降の二面ちり　マイタ
ちをたんゝ　蝶見ゝのそばやゝぶ竹ケ　玉青
洗綱ゝ庫ゝ生蝶てる祢ゝ生屋　マイタ
鼎ま世ぬめゝゝふなゞゝ初色ハ老乳　里松
新造をゆりもやゝ便居して拾ゞ　志タ
杜若繰ゝ　かつきるよゝ帆て色　孤雲

柳世七ノ十二

好かゝ女ゝ彼やゝとゝ生おする　横好
脇の巴ゝ生ゝ祢をする　居　ゆ　孤川
旅の留ちまちる羅なき女房之　春蕉
四日月やゝ徳ゝの新ハ初ゝ枝ゝ　里松
きゝゝ命ゝ見せゝゝ遅ゝ生ゝ蒙ゝ　孤川
ゝ行ゝ女ゝ蕉ゝ紙のちりをとり　柳色
お茶マアゝ生ゝ色の茶をゝゝ生ゝ　里松
稲ゝ世ゝゝ生ゝ稲ゝ殘てかゞのり　作子
ゝ屋ゝゝゝ命ゝ生ゝゝのゝゝをとり　仝

それきりとやなりあとにおれてつき　中布
大の字なりに下女を押しつけるように　志賀
大尾　おりの紙でそっとおさえ張きをする　シケト

斗丸評

器の戸を投て戸をしめ御代と歳　芝楽
あれなる山九合かいてえう星　孫川
屏風とゝ花をいやつる北名あり　獅雲
歯のいゝ母を持つのゝ孝へいり　妻弱
器軍てもさせぬ師匠つま　玉青
やゝふまと云て山吹折ゝ来る　妻弱
信玄公八名將と加利多門　柳五
あれちゝきの境ゝと美ひ　孫川

接度仗詩も碁も嗜む男あり　夏的
夏の夜の長く屋敷を立まるぞち南り　花夕
三歩出て見ると言ふ人ハ水ゆ　笠山
みたらん伸人ゆ来く揺を掛　西夕
面白いのハあるでもまる姉ん出て　青的
何を姉さんゆ桃の本を投中る　中布
いろ〳〵ゆ小指ふみさむ高ん打り　西夕
知る人の何ご代見仕る三度笠　西旦
夏艸ハ赤ち〳〵たれぬ女帝ん　芭蕉
柳世モノ西

言ふ人世の指指ふ形るお汁の子　亞素
油うりでも仕出て〳〵ゆハ道　三　仝
乳母ゆ尻わうむゆ蒟蒻や　西旦
ゆる稼世間ハ廣いゆ〳〵や脱　孫川
若光ち業地ごと十女思てる　素的
素て円ひん金百足と奉加帳　素翁
作り寄ゆでいぞ〳〵き形〳〵ま素　孫川
進と中　首代ハ二子　足　笠山
い所〳〵素とせん言を八まる　孫川

永代寺揃の名手をあつかふ世　玉壺

時鳥かくこの八壹銭阿をむかし　砧川

けちな助六青屋をおちて居る　音駒

屋ま虎が出ると竹子揃て逃る　一佳

大神宗乳母あいらいもとし　砧川

出くハ知らいしてかしア今度い世　仝

婿んどし銭をばし入玉將まいり裸　是楽

遣きしり銭売いし安より安豆腐　雨丘

独の年古猫と呼てハ山師来る　貴丈

新世七ノ十五

雪の古手阿ぐりでかける面をきを　玉壺

是助ハ鳥居をかり姥銭出利　左幸

馬の尻乃さくらさく気にしく一の谷　孤雲

大尾

振ぬきし牛蒡をぶ川意乃奴之　花夕

川柳評

大おんも大志おうどんも寅の方　一佳

御利運の古稀ハ恵どの鴨之丸　木賀

私たよく深かくし帰る安大家老　砧川

なそるかな江戸の八足之も紫煙　マイ丈

ゆつぞれが山九合ふ[illegible]
天ン新ンを添しがてらの晩乃礼　孫川
屋形にも来まぜ下駄ふまるぞ　仝
名残いと深かりひかきつぞさ　笑山
死かしこ重箱ハ嫌ましのさま　孫川
誠ましくしく源の桜ふ柳乃花　花夕
孫云成目の出る程ふ伍子胥す　ゆ雀
ぢ糸搭ふ[illegible]ふ来いまるる　一徹
面白き晩ハ日赤ハ地ふ[illegible]　笑山
柳世七ふ天

魏の金へ手ぢまをイを呼び寄る　一徹
法も一ぜつのて有るいく女帝　孫川
歯ぎしりを志のく安乃安星弦　面旦
時ふ息長味ハりふ常へ沢　紙雲
加んぎしで志のと味の口をぬい　秀矢
ぶを手ぬいて今ふ寿弦抜　孫川
一摘一ぜり打ふ志田金乳母　秀矢
加て咲伸人つぶこのふふ云　ゆ雀
頁彼をふのと金瘡ふ破ま　仝

我家ハ代々医業師　柳雨
進上中　代ハ二千　足　貫正
樫の木とて成抱る深おろし　音鈴
浜樫で外科をしいてたきまた　五幸
手履先むぐ〳〵禮をかゝみ　佐宗
目と耳い只さかゝ口ハ鐵がいり　如雀
ふらこ月とが這入られぬ松の門　紫正
いとゝ孝とせんるきつまるる　保川
申つまんと益でゝちんハ入彩り　五幸
柳世七ノ十八

古筏義七吟〳〵焼もいちりたし　里松
ちまもりちを先キハ立ろと松洞ち　紫正
珠数さゝ〳〵と影〳〵ゆんで小云之　志雪
けちや助六者屋を丹ちて居ら　孝鈴
高が只言と力さいき中ゝ　保川
とハ知〳〵〳〵てかゝア今廣つゞ　仝
大尾
腰〳〵を松曲を法〳〵也地天神弁　横好

千恵寿評

三百〻瀉めバ拾貫もあイとの　千之
ゆ祝よなるとえん金山寿ふるる　志寿
家老職居りさ形りも國うま　孫川
つ是祭りさ発てさ為よふすこ門　赤糸
子あの色も女帝うう出る　竹雀
兄弟ふくハせ〻く味噌をある　西豆
諸近ひさを人を出して志ゑきている　志夕

称世ごう九

吉字〻立流よ速く汗を拭　巾布
様の留まるかゝ女ハ石よ物り　里紅
柳樹ゆ〻りて毋を薬し出し　巾布
及物を安〻買ふる美城ふんる　孫門
数入ハ海さう森らまやせんと起　門柳
ゆゆ〻ハそれて仏るうと片眉毛　吉寿
八月の皮きりゆ門い紙日ちり　孫門
孔子乃涙此人の強くおち　赤矢

泡池閑林の中へ分け国家老　孫川
屋敷松の下よりたきな雨傘より　仝
松の木の柱よりこの屋敷造り　岩山
新造の部屋〳〵実盛仕立　仝
伏見うらの茶屋作り　玉章
いろ〳〵ものを茶屋にしかる男　横好
四日よりて来る月番　西上
二度来の坂面を女房よりまいる　孫川
柳世七年

面白く情夫の繋る猫子屋　横好
新宿の絵和出紀を廣さて　孫川
猫を〳〵男手きりの新遠　横好
男女の中浅〳〵〳〵泡　中布
番をのの繁いかきう繁やい　孫川
泡ひの中泡多で知る吉陣　孤雲
名代はたを立まて手あ　玉章
味噌利人あめるさ男あり　柳西
年寄の鼻ふ目の後立　半丸

ちよみのもなかの日高くなる夏夜哉　此年　義後
豆腐屋八時斗の中ゝかもなる　如雄
横ざけのまるハ素人の鍋と　五雀
徳利ハ人間の婿を祝ふ世　孫川
かつて大を喰てゐる彩世帯　長秀
あれうとあまてをゆると下女ゆゑ　孫川
大尾だけ人ゝ知やさしく麦の中　中布
犬の糞のとゝ用さつ川屋

川柳評

柳樽七ノ廿一

みぢかくて八月ゝ海ゝ抱ゝ　孫川
鶴ヶ岳お大名お殺生会　花夕
ちとせ命一日寿ゆゑ　如雄
神と儒者迷(問)答ゝ通稱かし　五雀
花の雲今ゝ尼ゝを吸ふ　孫川
大名ゝ踊仕もさせる世事　長秀
弓箭を元ゝ引とゝ　孫川
北川のちまさよ迷ゝ尾ゝ　等山
金家老曲ゝ不い腰だゝ　孫川

皮膚をあらてたるゝ事なり
〻祝ふてうとゝんまん房ぶまゝ
武義ハ小林武ともあること和
死生命ハとゆゝふきこゝに
云謀の恥をきよゝむる之舎目
ゝ和ゝこと云流ゝ云て汗をかき
機をかゞけき雲イ女ハ有ふ有り
至熱ハゝちゝの房も可ゝ食人
泥沈肉林の中へ出る國家老

柳世子廿二

孫云
五寸
一徒
茶夕
赤糸
巾布
子私
マイタ
孫川

伯良ハ所ゝ女房ゝ生ゝ和
八月のかゝさり暑ひ後日之
狂ゝ三人ゝ背中のこゝを女房は
徒然ゝ日ゝ三人ぶゝ生
尼ゝゝい多のひゝ有ひあるき
仏法の大さハ和尚ふ法ゝも
盲目ゝ人の上ゝ立ゝ中ゝさ
ゝのかゝり徒田義者ゝ
ゝたてのきゝ女房ゝ多生を殺ふ有る

巾布
孫川
仝
愛者
本賀
千之
一徒
赤糸
赤鳥

陸奥ハ只附の地を極メ中ゟ
かゝつて文を作ている彩世筆
赤みと字位イ篠原型模様
書ゟゟ大ド妙者人を張ゟ生る
おちでハ福弥こせ家巴の形
稱ゝ妙者して陸て居るわ石
朋ゟ奉世房ゟ書ゟ
文作ゝで唱ゟと浦ゟ新ゟ
器酒級宮中酒を書ゟ
御一冊七ノ廿三

左衛門
福川
玉章
横好
左衛
つ柳
ア私
孤雲
義俊

味噌用人ハ中ゟて男形ゟ
あ級者位解書ても弄り
息子の大病ハ俄ゟ病ゟ紀
物忘の粥和ゟ廣ゟて
きれハ好キ病ゟハ生ゟ好
結の貧ゟゟ中ゟ
拾ゟ人金ゟ月ゟ
サア王を云ゟゟ
中ゟ変ゟつゟて蔵者のゟ声

柳田
義俊
玉章
福川
仝
本賀
ア私
中布
福川

大名の上ケ下ケをする三河丁　志夕
新橋りまへまと思へ志のび入り　美後
世を狂て牙ハなれすゝ居ひ　中仲
角ハ獅子なりけるもけれ山桜ハ思へ　孤雲
まさう男よりしのなひらの玉子　保川
寝て三面かこてみなえてくれ　本賀
知るのうと思へいたをゆてりり　てイタ
けつ思元めうと無芸子こうら　保川
小女子知志をまつ思へ　丁松
桜世七ノ世口

下ゆ丸丸丸丸弁慶をぬきんでる　赤朱
思ふ仕かゝ知恵せと思ゆ云　柳西
て人ちゝ通と桜法元知ゆくゝ　保川
かのりの人うれ女知をゝ人小写ゆ　志秀
大尾　かゝぎとかゝと乃後ゆゝ法うび　春鳥

文日堂評

一對のよふにすみ渡る秋と音　吹庵
月ハ今松より出て松をハなれ　吉秀
古池ハ世界へ云く〻ものけ音　柳亭
二ツなん山三ツ山ハ鶯昌き　春鳥
初の手に園廣を拾ひと長屋ハ　笠山
旅ゝ者の弁ゝ神いゝ発　仝
白氏文集ハ大自ふ和歌の弁　孤雲
定級を繋くゝ明日昇進　春弱

柳北七盛

[illegible]　和雀
[illegible]　仝
[illegible]　横好
[illegible]　[illegible]
[illegible]　玉亭
[illegible]　孤雲
[illegible]　[illegible]
[illegible]　吉秀
[illegible]　笠山

玄徒ハ三度の人華こ〻合りづりゝゼ　是示
味のよきさゝ分酒井田を侍後石シ　樓好
一下筆の枝こゝハ稱こゝ見人ぬこ　吹竜
一下婦こゝ代をナハめる新鶯　王梅
重ね飯ゐこ一金地おまんや　加雀
拙者ゝが幣後嚴こ新き三こ　樓飛
如庵こ仕てハ婦こ秋が初り　仝
あるこゝて十霧盤ゝ白嵐　豆人
新兵こ宿稱こゝめを買こゝ　綾丸

柳世七世六

ゞの宮おこゝも中のよゝ蓮の宗　表柳
お米で吉宗こゝ元紙（シュキ）一変し　嘉雀
王白こゝかく〻必こゝ面こゝ　重矢
一下足遠ひ名代の口嵐こゝ　面夕
ゞ年こゝぶん中へのこゝ引ぶこれ　ヤイタ
梅干弦佛こゝ庵こゝを揚べこゝ　玉重
斉貴宰こゝやまこゝ名こゝ月　綾丸
佛こゝ名こゝ弱人の八武こゝ　尸松
義出稼市へこゝと海月門世ゝ　歩賀

皮付て きせるをもらう 嘗粉　柳多
振袖人給を貸ると 伺られたり　笠山
麻屋ハ客人傘やハ六角を備　葉月
いつ嫁ぞ嫁の乳首のすいて居る　千之
六人の勝と客を秘戸かくし　尾鷲
虚うはれよしうり嫁の足袋継ハ　里松
蛸でも居るかとまぎぐ払伽とし　秀只
本の娘ぞよ娘ハ蔵丸たり　喜寿
両都して唖の銚子をつんのめる　如雀

柳卅七ノ廿七

継ケ伯母つげハ例の蕪けさ　秀只
梅干をまだし漬る安楽寺　喜寿
年寄とも屋里から枕をつき　仝
為まじ川を切纏て渡る道　志夕
将棋の歩まぎ捐をなし居也　仝
似色和を差出て歩ける蔓居　吹庵
入船小蝦屋を尾める居乃自　豆人
石麻をあめらて雪文字が出来　笠山
狼乃化ケを表えて是かくる　錦実

吾口之陽の余りは立てゝ
ゝゝとたなびくはして夢後函　横好
其系は桂元で蛙生ゞゝ　月鶴
二月里方のきんを城理より　看長
化されて徳をしさのく安名と　雪矢
城王を吾ふよ徳の夢魂より　雪私
大不内義い月よさとり出来　有長
月くゝ里ゝ蛍ちまゝ庭でつゝ　志夕
湯へいろ三月ゝ弟係をくひ　麻楊
柳世七光八

女房も岩戸を開く伊勢の海ち　武彦
仕指を宮ふ月ゝ神さんと市屋　青鷺
山伏をいぢり三月三城掛ゝ七夕　柳面
小女地口ふの中て小るさんる　全
柳の前合ひ七夕ゞ元祖あり　義陵

川柳評

富士山の名字ハ代ま解ひ　面五
青鷺翼ふ形人帝地行て居　青鷺
西お体猿の形人鶴城ゝ　吟庵

國都老實ふかく世の片鄙なり
宸川敷〳〵味方で一ぞう出来
先の味方概の天〳〵二人あり来
概川より川越〳〵川意ず
而の山より不老ふ死ふり完賢
まそ長ふ川辛さう面百ふ余
光矢をおせてあ痛ひ口上
白馬の軍なり住〳〵クワダフ策
世家老内さの中ウ小ぶ

都光　右衛　歩賀　横好　右嘉　未学　孫門　中布　孫門

柳北七九

橋の面ふ繋りも生りも
報又〳〵ふ多ふ繋人母〳〵ふ多ふ人
武の子孫伝世門〳〵川ふ
ふの間ふ小賀ふ生ふり入り
法師ふ義伸〳〵間ふ
ふ〳〵と面ふ多ふて軍藤西
味ふ生ふ〳〵時新ふ教朝ふ
法ふ小部〳〵海ふ修ふ
法ぶ〳〵小支度ふ軍ふ生ふ入ふ

竹雀　右嘉　味庵　中布　右嘉　九彦　中布　竹雀　横藤

どれも是かり毎ち川さとも吉原　赤子
売色をするにかくれる料理人　西丘
夕顔も江の縁にぶら仲る　篠川
去使ハ三度見舞て念ぶつらせ　芝楽
魯智深も疵のつくいかりさげ舗　權亮
孫悟空少ありかり立てヤレたまもし　篠川
赤子をかぐにもけぶし息子の殿　如雀
紙帳をきらさるハ常弥の男ぶり　芋洗
新造ハ生ま手の爪に縛もしき　篠川
柳卅七ノ二十

本堂で吉原の庭後一度し　吉扇
駿河丁人別帳も入逃げ　狐雲
松で墨をはずす境　都亮
三途婆王ハ在のハ娘はまり　横好
和尚球扇し吉原ぎるハ時イ遊家　如雀
新造三別酒を楽もの重　玉章
町人と見えて新造ひがめし　丸彰
掛合ふうは手ぬ欺　西丘
源左の重の中のかふ蝶おされ　如雀

おいらんの[illegible]人、嘴のかぶ[illegible]　百五
支たゝお稱よ神[illegible]ふ[illegible]不繕手　マイタ
みゝ[illegible]のむ[illegible]ゝ[illegible]経よ通ひつ免　アラ稱
[illegible]ゝ寂寞(シヅカバリ)として話[illegible]法云　中布
雲の[illegible]雲一金を物ぎん中　谷崎
辭[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]が鼻へ為　孫川
[illegible]を拵て[illegible]ゝ[illegible]居　吹庵
合[illegible]ゝ[illegible]や[illegible]を出　谷崎
[illegible]ゝ[illegible]屋[illegible]枝をつき　長家

柳花七ノ世一

百[illegible]て亞のうこて[illegible]　谷崎
年[illegible]て立[illegible]居ハ[illegible]　孫川
樹ちぎり[illegible]馬[illegible]ゝ[illegible]合せ　横好
丈ゝ[illegible]が[illegible]と[illegible]　孫川
丈トいゝ[illegible]人[illegible]丈為ゝ　百夕
牧を[illegible]てやるの[illegible]和睦之　中布
女房の[illegible]を[illegible]ゝ[illegible]る　子之
居ル花の為[illegible]居ガ[illegible]見樂　孫川
名イ山を中女[illegible]布[illegible]の[illegible]る　義淺

翁ヒ鮮ふ老ひ〳〵くと神鏡　玉章
材多結大ウ手型元ひげ強也　仝
七ヶ根清淳〳〵と臓腑まる　孫川
味のよさをつる耐年目を傳後石　横好
女郎のかゝ〳〵け疵よ似て疵ヲ沈　孫川
年制元〳〵弓〳〵弟油の実ヲ絞り　仝
石のかゝア芳のムセ〳〵ぎ生〳〵止ぞ　吉秀
徳利〳〵多ル〳〵と産てつるキ也　扇橋
一千樹の生きうふ之俗産移　孫川
極ヲ〳〵極〳〵アいのハ下女ヶ尻　歩笑

雨旦評

清代よ結〳〵かるひ〳〵かゝ成の古歌　吹庵
庫裏の間と云イヲ家古産安　西夕
鄭声（ティセイ）と利口を惰む國家老　孫川
花の名ヲ形白〳〵ゝ舟〳〵庫元　谷水
勅撰ハやの字勅若ぞ付まこ　春鈴
御用札風風ヲ〳〵融麟角（キリンカク）　芋洗
八百九彩偽ふ亟ふ國づくし　マイタ
おろ〳〵と云ふと云伯著せなげ　如雀

ほのぼのと明るき空に松の梢
大阪屋眉間の白雪　柳城飼
出家者元ト唯一の独ぐらせる　柳馬
一ツ屋の月ゝ淋ムかゝ安イこゝめ　雅雲
月毛ゝ一ト夜を拾ひ　マイタ
酢のもとゝ赤夷ゝ公家ハ云イ　成宋
孔明と正成初雪をもぐり出シ　マイタ
エレキテル出藻ぬ所の法出来　ハ柳
知りて加点の老人り猿指三里　出章
柳城九世三　素弱
柳馬

石と舟ハ大きなるとハ不思ナリ　出雲
イヨ出屋ナどゝ　有書
皆ナどハ出ル　年賀
死生命有て七ツ日も七ツ夜之　志久
月ハ秘なく樂屋ゝ　玉屋
弱紙なきゆゝ王子ハ和歌ち　雅雲
九里山まんゝ不二ゝ　出章
二湖寺姫程ぬ曲ぬかし　雅外
鴉の小云ゝ九月頃乃至ぬ水　芋洗

汐舟の綱を解き風を曹操まが付べ
き見物日〳〵に行かど弟子
霊亀の幸を祈ぎ〳〵礼を述
ぶるに成を医して
所新蓮を以て富士を模小島
目わかやうに見へ祈ぐも苔むれ
紙を宮〳〵何こかもると五百云イ
庭の古物小百〳〵夢に紅を帰
柳世九世四

マイタ
秀反
名書
仝
巾布
手拭
孤雲
孫川
横好

幽霊は生辞を知る所と
村口荒いつまで神を引て
わざとこ縁びかわるさ
勅言で見れば楊貴妃
古り状か生涯ハ孫と様を出キ
京どらく又きんしと光云イ
きれぞ色を色の姫をもく付
所で成こ所ちて言ハ花白黄
組入の赤袍所面小神酒の口

兼写
左書
孫川
玉書
柳葉
手紙
柳面
手拭
如者

一どきて百々第よりい　世　孫川
注を讀ときて黄八丈をぞて　仝
帳でし出さる所浴川第を居る　笠山
京服と立流よ迷て稱宜を云　左幸
風の形くを生らて　とさり四れ　芸吏
お豆腐の借りを力先できりめる　如在
義の竈へ女房乃かを入を　色糸
借りがあるとふ云ふ丸で長を　愛義
光りがやふ洞壺と女房あり　一徳
柳井九井五

左の方のつれかくきてけちをだん　和星
士ハ服さへ切ることをみ見新　孫川
新政のようて立川切房し　西夕
大十か長り稱浦戸物丁でんる　左幸
さり府白服ですが長元を　中布
お月さ長いく川黒川　孫川
加ばちやで稱ガ上言　早私
運の以く服牡丹餅でこるある　牛奚
鰹笹の飯半り喰ふ居　孫川

俄の一重瓶乃ふんとそもさがり　面桁
信濃おどろ[illegible]大軍喰留　了拾
[illegible]ひもよりの[illegible]後より[illegible]　横山
かけあがるも先[illegible]度で[illegible]て[illegible]　鹿鳥
[illegible]ける城[illegible]ふ[illegible]る姫の地[illegible]　了拾
箱入も提[illegible]ある雛乃[illegible]　柳軍
江のしぎんご孫[illegible]　孫川
並び[illegible]きあハ[illegible]下女遣り　横山
芋虫の女房[illegible]　柳面
柳井九世六

[illegible]命九と云[illegible]　和里
なるの[illegible]尾一トつ[illegible]ゆてどうり　横好
一[illegible]白ぐ[illegible]下女遣り　有長
る[illegible]服帯が延び　赤く[illegible]　面多
[illegible]かぢり[illegible]極の[illegible]で[illegible]　川柳
[illegible]尾　[illegible]将ハ一トで腹をつ[illegible]　了拾

川柳評

[illegible]昌さ月の入[illegible]　武蔵
[illegible]佐[illegible]八百八丁[illegible]ムなり　孫川

[illegible]井の御[illegible]大石山[illegible]也　柳
[illegible]ひとり[illegible]さびしい魂[illegible]り　[illegible]
[illegible]山[illegible]知[illegible]遠[illegible]云イ
[illegible]後[illegible]人の[illegible]ける[illegible]ば　マイタ
[illegible]ふ[illegible]今[illegible]帰[illegible]洗[illegible]し　柳果
[illegible]造[illegible]赤[illegible]天[illegible]己[illegible]来[illegible]来　仝
[illegible]弱[illegible]ふ[illegible]王[illegible]本[illegible]寺　柳西
[illegible]元の[illegible]ら[illegible]陶朱公　[illegible]
[illegible]新[illegible]後[illegible]冨士[illegible]　[illegible]

柳世代ノ帙七

[illegible]り[illegible]の[illegible]ふ[illegible]ぼる一家中　仝
小[illegible]一[illegible]武[illegible]ん[illegible]　マイタ
神儒仏[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ら[illegible]仝　[illegible]
十二[illegible]ま[illegible]ら[illegible]ば[illegible]ま[illegible]ぬ[illegible]ば　斗九
お[illegible]家[illegible]ま[illegible]ま[illegible]西[illegible]　柳森
[illegible]皇[illegible]八[illegible]や[illegible]飛[illegible]　[illegible]私
[illegible]真[illegible]の[illegible]ま[illegible]　[illegible]
[illegible]辺[illegible]引[illegible]ば[illegible]　[illegible]乐
[illegible]の[illegible]女[illegible]見[illegible]　[illegible]

八手巻紙一ト右小ぶる帽の目と　芋洗
紙と右敷ゥ風ゥ人の寄せとある　菱喜
かりゥあらとふ山の敷てさが物る　仝
蔦簾洗ぶんこをかゝハ休ふ連し　義陵
且寄ゥ且ゥまゝて加る簾神ゥ　如雀
笑ゥてゥゝかみ皮ふ武タ色　保川
若根今切タ物の中帝寄落　雅雲
寄ゥ敷文湖重雲て居る　保川
地の目て寄タ寄筋あぎし　志タ
和井九ノ廿九

家伯ゥ鼻ゥかゥゝ云茶ふ為ゥ　楼飛
ゥ不得タ自タ曲ゥふまかゥいて　中布
胸ゥゝの寄ゥふ鐘ハつゥまゝ新　磯引
ゥる伯寄ゥゝ女房ゥ産ゥ去ゥ　ハ柳
月ハ極ゥゝ質ゥ寄ゥ去ゥ来る　志タ
病イ大ゥ物ゥと逝ゥて居ゥゝと逝ケ　ゥ上
嘲ても出ゥゥ宮沢川茶ゥ居ゥ　笠山
タ川での夫生湯濃ゥ会ゥ　赤糸
話出ゥれゥこゥゥと御ゥ国ゥる　中布

胡椒り団のそ尾合十五面ン　義後
トケぶりを街ヲ小京老ハ間を三千　笠山
高川毒さかよ号ハ　ゝ数わゝめ　福川
老りかゝゆゝいぶつと世房あり　一盛
きゝゝゝせゝもちんと与無さ　坊と
江戸の法ト号ミ伺意へ引てを称　松雇
村ゝぶ川いゝまゝ仲をむ毒川ゝる　お愛
シイウ鯉がるイを毒飯を食ひ　南乗
千ヶ浅でちは食ふを少ゝ　福川
ぶのぶゝん雲ゝゝひゝゝたと信法　千三
ぶゝさがゝゝぶゝわゝぶゝ井ゝさゝん　本賀
仍乎ゝ西風ゝるときゝたゝゝ　福川
下世ゝ盟ゝ浦ゝゝゝゝ蛭　和里
稚命ゝ九ゝゝゝゝゝゝゝゝ　瑞雲
下世ゝ獲ゝ人ゝゝゝ中ゝゝゝゝ　福川
浦屋を峰で屋浦を湾ゝを　全
蛭の浦ゝゝゝぶゝ鳴ゝゝ　坊し
浦ゝゝゝゝゝゝゝと下　世ゝ蛭ゝ

肥後ぜんきやげの紙の表ぶん　孫川

されば月の氣ぶいあのいけ笠人の　亦来

六尾　世ぐん後亦されば後世の一つかり　芋洗

表門十枚五百三十九編終

柳樽十八四十二

○俳諧風書品目録　江都上野山王之麓　花屋舊次郎

俳風柳樽撰選十冊　川柳点句調附代句四季恵雜部等議作者部分

同川傍柳　古川柳点　三篇　同やすん賀　古川柳点　二篇

同柳句程篇　久遠物篇　二編明盛点句自筆句押物著

英きく さらし　五文字形句隠せず江戸皆筆付　小倉名仕事手引の事

同爭星　凡夫庵星等角と俗形句五字江戸地点

同百々子　琉球寺願芭俗　江戸地点形句五字

俳諧玉手箱　蔵書印　四季言葉寄附俳諧　孝子義利人事